

第3回小委員会の論点

第3回小委員会の論点

○気候変動による降雨量の増加や海面水位の上昇により、施設能力を超える洪水等が発生することを前提として、人的被害や社会経済被害を回避・軽減させるためには、どのようなハード対策を実施すべきか。

これまで

(考え方)

○主に外力を制御する水災害対策を実施

(具体的な取組)

河川の対策として、流下能力を向上させる対策や、流量を調節して水位を低下させる対策

- ・築堤、河道掘削、樹木伐採
- ・ダム、遊水地による洪水調節、放水路 等

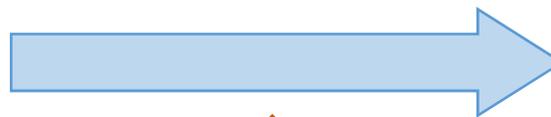
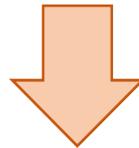


特に、都市化の著しい流域における対策として、開発に伴う流出抑制対策や地域づくりと一体となった対策

- ・盛土抑制、雨水貯留施設、開発抑制
- ・輪中堤、宅地嵩上げ、排水機場

近年の災害

- 施設の能力を超える降雨や洪水の発生により、多数の堤防決壊や内水氾濫等が発生
- 土砂・洪水氾濫などの複合災害も発生



気候変動・社会動向の変化

- 今後、気候変動により水災害リスクが増大することが予測
- 人口減少や少子高齢化、社会構造の変化が予測

これから

(考え方)

- 外力を制御するための対策の強化
- 被災対象を減少させるための対策の強化
- 被害の軽減や早期復旧・復興のための対策

(論点)

- 今後のハード施設整備にあたっては、どのように計画や施設設計等を見直すべきか。
- 被害を防止する対策として計画的な整備メニューをどのように拡充すべきか。
- 少しでも被害を低減するための対策として、どのような整備メニューを拡充すべきか。
- 上記整備メニューを実施するために、関係者へのご協力を求めるには、どのような制度や支援策が必要か。

気候変動を踏まえた総合的な水災害対策

○ 流域の関係者の協力や、各地域の特色に応じた様々な手法を組み合わせることにより、地域の水災害リスクの軽減を図る。

※赤字は、拡充すべき施策

氾濫水を早く排除する
被災範囲を減らす
氾濫水を減らす
(決壊を遅らせる/決壊させない)

氾濫水を早く排除する	・排水門の整備、排水ポンプの設置 等	市町村等
被災範囲を減らす	・二線堤等の整備 等	市町村
氾濫水を減らす (決壊を遅らせる/決壊させない)	・堤防強化 ・高規格堤防整備 等	国・都道府県

減災対策 : 少しでも被害を低減するために実施する対策

防災対策 : 目標とする外力に対して被害を発生させない対策

しみこませる・貯める

しみこませる・貯める	・雨水浸透施設(浸透ます等)の整備 ・雨水貯留施設の整備 ・田んぼやため池等の高度利用 等	都道府県・市町村 ・企業・住民
------------	--	--------------------

貯める

貯める	・利水ダム、多目的ダムの事前放流 ・土地利用規制による遊水機能の保全 ・大規模地下貯留施設の整備(都市部) ・遊砂地等の整備(土砂・洪水氾濫対策) ・ダム建設・再生、遊水地の整備 ・雨水貯留管等の整備 ・砂防堰堤等の整備(土石流対策) 等	国・都道府県・市町村 ・利水者
-----	--	--------------------

安全に流す
(守る)
目的

安全に流す (守る) 目的	・河床掘削、引堤、放水路の整備 ・雨水排水施設の整備 ・海岸保全施設(堤防、護岸、離岸堤)の整備 等	国・都道府県・市町村 主な実施主体
---------------------	---	----------------------

これまでの手法



気候変動を踏まえた水災害対策手法